

ホーム名：グループホーム第2東神田の里 あかしあ通り					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念に基づきユニット内で方針を決定し共有、掲示している。また、接遇委員にて標語を募集し月変わりで掲示している。変更などの必要性については適時ユニット会議で起案している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を設定している。理念に基づき、各ユニットごとに毎月、行動目標を立て、職員は日々、ケアの実践につなげている。	今後も各ユニットリーダーを中心に職員一人ひとりが、法人の理念を理解し、理念をより具体化された行動目標を日々のケアで実践されていくことを大切にされていくことに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の代表者と自治会行事や施設行事を共有し相互に参加を推進し地域住民と入居者の交流を行っている。	地域の自治会行事への参加等の交流を通じて、利用者が地域社会とつながりながら、地域住民の一員としての暮らしを続けられるよう取り組んでおられる。	今後も地域とともに暮らす一員として、自治会行事等を通じた交流を深めながら、地域で必要とされる活動への参加等を通じて、地域との関係性を深めていかれることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方には自治会掲示板や入居者ご家族を通じて認知症の方への理解や支援に対する相談を受け付けている。また施設行事の情報を発信し参加を推進している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者様・家族様・町内会役員・市役所職員・包括支援センター職員から聞かせて頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、地域の代表者や地域包括が参加され、事業所からは、現状報告や新たな取り組み状況について意見交換が行われている。意見交換の結果は、必要に応じて運営にも反映されている。	利用者とその家族の参加が難しい場合は、議事録を家族にも配布したり、施設に訪問された家族に運営推進会議の状況を説明される等家族の関心を引く工夫を充実していかれることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者には運営推進会議への出席をおねがいしているが参加して頂けないのが実情である。その際には議事録を届けて地域包括支援センターと連携を取り協力関係を継続できるように取り組んでいる。	地域の地域包括支援センターと緊密に連携しながら、必要に応じて、市役所担当者とも良好な関係が築けている。	行政は介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役でもあるため、施設側で、市と連携して介護分野での地域の課題解決等に取り組んでいけることに期待したい。

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアル等で何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアを目指している。身体拘束をやむを得ず行う場合は、家族様に十分説明をした上で同意書を頂き、毎月ユニット内でカンファレンスを行い、どうすれば身体拘束ゼロに出来るかを話し合うようにしている。</p>	<p>各職員向けに研修を行いながら、各ユニット内のカンファレンス等で職員同士が意見交換を行い、身体拘束の防止に努めている。センサーマットを利用されている利用者に対しては、本人と家族の同意の上、毎月のカンファレンスで、継続有無の話し合いが行われている。</p>	<p>身体拘束廃止未実施減算の開始に伴い、その基準も参考に身体拘束をしないケアの実践や職員研修の充実に生かされていかに期待したい。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会を設置し外部研修への参加や日常業務においても身体チェックを行い防止に努めている。また、年間研修計画にも必ず虐待防止の項目を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の成年後見人とは施設管理者を窓口とし必要に応じ連絡、面談などを実施している。また、施設内研修を通じてその必要性や内容についても理解する機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には施設管理者と同行し面談を行い不安や疑問などを伺い理解、納得頂いている。また、入居後の疑問点等についてももうかがう様にし直ぐに解凍できない場合は調査、確認や管理者に上申し、改めて説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時にご家族様と意欲的に交流（会話）する様ユニット職員に伝達し意見や要望を積極的に伺っている。その内容については日常業務や申し送りでも共有し必要に応じてユニット会議、リーダー会議にて起案、上申し反映している。入居者に対しても同様の機会を設けている。</p>	<p>家族面会時には、職員から責極的に声かけを行い、意見や意向の確認を行うようにされている。利用者の意見や意向も日頃のケアの中で、確認を行うようにされている。聞き取りされた意見は、各種の会議で共有化され、必要に応じて運営にも反映されている。</p>	<p>面会にこられない家族もおられるので、どのように意見を出して頂けるのかについて、事業所側、利用者側、家族側のそれぞれの事情を考慮しながら、交流を深め、意見を出しやすい状況をつくっていかれることに期待したい。</p>

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日常業務や申し送り等の様々な場面を通じて意見集約を実施している。また、会議においては（持ちより）という項目を毎回設け様々な課題や原因分析、解決策を職員から募っている。</p>	<p>各ユニットリーダーは、職員からケアでの気づきや意見、考えを聞き取り、必要に応じて運営に反映できるよう管理者と相談されている。管理者との相談結果は、各ユニットリーダーから職員へフィードバックされている。</p>	<p>隣接したグループホーム事業所とも連携はされていますが、運営に関する意見は、各事業所、各ユニット単位で事情が異なりますが、意見交換等通じた交流を深めることによる相乗効果も期待できると思われる。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の要望や家庭環境を考慮しシフト作成に反映している。また、休養、体調不良時の欠勤などにおいては柔軟に退大牛家庭、職場双方において働きやすい環境や条件整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を持って働ける様に施設内研修や施設外研修に出来るだけ参加すると共に参加できなかった職員にもわかるように講習や研修等を行い知識の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修等で知りえた同業者との情報交換や地域の同業者との連絡会等の連絡会にも参加している。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談があった場合に入居者ご本人様が来所された場合は、一度居室を見て頂くように実行している。入居者様ご本人に安心して、入居して頂くように努めている。</p>		

16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている</p>	<p>入居契約時に困っている事、不安な事、要望などを聞いて確認させて頂くように努めています。また、不安がある場合には、入居契約後であっても、来所して頂き説明を行ったり電話連絡して説明をし信頼関係を深めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>最も必要なサービスや支援はどのようなものなのかをほんにん、家族様から聴取し施設管理者、訪問看護師、管理医師等の各専門職と協議、検討し初期支援、サービスの見極めと対応を実施している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様の出来ない事に注目するのではなく、できる炊事や洗濯物は毎日職員と共に、又は入居者様同士で行い、職員は出来る限り入居者様に寄り添い会話をし、入居者様同士の交流を深める様に務めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人様と家族様との絆を深めて頂くため家族様の都合に合わせて外出、外泊、外食等を自由に行っている。又家族様へは、施設でのレクリエーション風景や外出レク、洗濯・洗い物・手作り食の手伝いの写真を載せた通信を郵送してご家族様と入居者様の絆をつなぐ様に</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの場所やお店などを訪れて頂き、関係が途切れない様に努めている。</p>	<p>家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣への散歩等を通じて、地域の方と交流も行われている。友人や知人の面会時には、家族に確認する等の配慮が行われている。</p>	<p>事業所だけで取り組むことが困難なことも多いので、家族や地域の支援をもらいながら利用者との関係継続に取り組んでいかれることに期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>椅子やテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者様が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者様に確認し一時的に席の変更もさせて頂いている。</p>		

22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後に新しい施設へ入所された方には入居先へ情報提供を行い、自宅に戻られた方には施設外でお会いした際には近況報告や挨拶等を交わすようにしている。</p>		
----	--	---	--	--

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の会話や声掛けの際、入居者様の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にて傾聴している。</p>	<p>各ユニットリーダーを中心に職員は、利用者が望む暮らしや何をしたいのか等と把握するために日々のケアの中で声を掛け、把握に努めている。加えて、家族にも利用者の思いや意向を確認されている。</p>	<p>利用者の思いや意向の把握には、日々のケアを通じた関わりの中でのタイムリーで正確な記録が大切になってくるので、SNS等も活用されていかれることに期待したい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供を基に出来る限り今までの生活、暮らしを変えないように知りえた情報を職員全体が共有できるように努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば申し送りノートを活用し職員間で連絡を取れるようにしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々状態の変化がある時には、家族様の意見、意向を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い入居者様に対して何が良いのかを探しながら月に1回ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い、書面にしケアマネージャに報告している。</p>	<p>利用者や家族とも十分に話し合いを行い、ケアプランに反映させるようにしている。利用者の変化を確認できるモニタリングとカンファレンスを通じて、ケアプランの見直しができる体制となっている。</p>	<p>利用者や家族等からの新たな要望や意向がないような場合でも、利用者との日頃のケアの中で、思いや意向を把握し、ケアプランに反映されていかれることにも期待したい。又、タイムリーで正確な記録も大切となるので、SNS等も活用されていかれることに期待したい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>関わったそれぞれの職員が個人記録に適時記入を行い、情報を共有し活かしている。個人記録や申し送りノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。</p>		

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>嗜好品等は、本人様とコンビニへ出かけ買い物をしたり、整容品に関しては家族様が購入困難な場合は職員が代行し柔軟な支援、サービスを実施している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会などの協力を得て地域行事に参加している。隣接の施設と共同開催で敬老会や夏祭りを開催し運営推進会議にて地域住民の方に参加を呼び掛けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>それぞれ本人様や家族様に添った、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている</p>	<p>協力医療機関による定期的な往診が行われている。又、協力医療機関以外の受診は、家族や利用者の希望に応じた受診できるように職員が、できる範囲で、受信の付き添いにも対応されている。</p>	<p>寝屋川市でもドクターカーの利用による救急医療が利用できるようになってきている。ドクターカーの利用等介護に加えて、医療面での利用者サポートにも力をいれていかれることに期待したい。</p>
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない為、訪問看護師等に週一度、訪問して頂き日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には、24時間連絡できる体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の入院や退院時には、職員が家族様、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先医療連携室との連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化においては状況に応じてサービス変更を行いご家族に状況や診察結果を説明し延命措置等については医療関係者を交えて説明し希望に沿う介護を実施している。終末期に関してはご家族様の意向を尊重し訪問看護師、往診医師への連絡方法を新たに策定し看取りを実施している。</p>	<p>重度化や終末期の看取り等、本人と家族の意向を踏まえて、医療機関とも連携をとり、本人と家族が安心して重度化や終末期を過ごせるよう取り組んでいる。 家族には、事業所として出来ることと出来ないことを伝え、理解を得るようにも努めている。</p>	<p>重度化や終末期の対応では、家族との話し合いと家族を含めた関係者全員との合意、その後の状況の変化に応じた繰り返しの話し合いが必要になるかと思われるが、本人や家族の思いに対し、事業所と医療機関がチームとして対応されていかれることに期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当・心肺蘇生について、施設内研修・施設外研修に参加し、尚且つ、急変・事故マニュアルを備え、発生時に備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して昼夜の避難誘導や災害時の避難経路を確認し、安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への協力要請や地域の消防訓練にも参加して協力体制をお願いしています。又、消防訓練時には、自治会役員の方にも参加を促したりし、夜間に避難時には応援に来ていただけるとの声も頂いている。</p>	<p>想定される火災発生に対し、消防署からの最適な避難対策のアドバイスを基に避難訓練を年2回、実施されている。 災害時に備えて、水は3日間の備蓄をされている。</p>	<p>地域で想定される台風（水害）、地震等の地域での具体的な影響はある程度、把握できているかと思われるので、影響に対する対策も年2回の訓練で実施されていかれることに期待したい。又、食料品の備蓄として缶詰パンも検討されてはどうか。種類も多く、調理不要で、保管もしやすいかと思われる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

ッ

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人内に接遇委員会を設置し入居者様への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内の良く見える所に貼っている。</p>	<p>接遇委員会で、定期的に話し合いが行われ、その結果を標語として、事業所の誰でも目に入る場所に掲示している。職員はこの標語を意識しながら、利用者の人格やプライバシーに配慮しながらケアの実践に努められている。</p>	<p>全職員が、利用者の人格尊重とプライバシーの確保を維持していくことは難しいことも多いと思われるが、継続して、ユニットリーダーを中心に職員間で日頃のケアの中で、お互いに確認しあうことも大切にされるいかに期待したい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常に複数の選択肢を設け声掛けや支援をしている。また、ゆっくりと話ができるような時間を作り希望の外出や散歩を自己決定を得る機会を設けている。</p>		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居様が自由に自分らしく生活できるように援助している。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>2ヶ月に一度訪問理容を取り入れている。起床時の洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声掛けを行っている。</p>		

40	<p>15</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考慮して、食事は業者に発注しているが、月1回手作り食を施行し、入居者様の食べたい物を事前に聞き一緒に野菜を切ったり肉を焼いたりしながら会話を増やしたり、お寿司等店へ注文した物を提供したりなるべく入居者との関わりの中で昔よく食べていたものや、施設の食事では出ないもの等があれば出来る範囲で提供している。</p>	<p>各ユニット単位に月1回、手作り食が提供されている。配膳や後片付け等、利用者にはできることを手伝ってもらっている。食事中、職員は利用者に声をかけをしながら食事を楽しんでもらえるようにも努めている。</p>	<p>今後も手作り食の機会を通じて、食事に関する調理、盛り付け、配膳、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と利用者が一緒に食事を楽しむ機会を多くしていかに期待したい。</p>
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事チェック、排泄、水分チェックを行い、排泄時間や水分摂取量のチェックを行い、一人ひとりの状態を把握し、1日の摂取量が確保できるように心がけている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行い、食事前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズ出来るように心がけている。</p>		
43	<p>16</p> <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェックにより排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をする事により失敗を少なくするように努めている。</p>	<p>排泄チェック表を基にトイレでの排泄を維持するために、行きたいときにトイレに行くことができるよう利用者に声をかけた後、利用者の様子から本人と他の利用者に配慮しながらさりげなく排出介助をされている。</p>	<p>今後も継続して、排泄の自立維持に向けて、排泄介助支援の様々な取り組みを利用者に配慮しながら努めていかに期待したい。</p>
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の予防として、レクリエーションの風船バレーや、散歩など運動する機会を増やし、排泄チェックを使用してKOTのカウントを実施、3日間排便が無い場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>職員の都合で曜日や時間他を決めずに行う様に支援を行い、一人で入浴を希望される方を把握して見守り、介助を行い入浴して頂いている。</p>	<p>入浴スケジュールは決めているが、利用者のその日の状態や希望を確認してから入浴スケジュールを調整されている。一人での入浴を希望される利用者に対しては、見守りを行いながら、安全安心に入浴できるよう努めている。</p>	<p>今後も継続して、利用者の状態や希望にそった入浴スケジュールの調整を行いながら、入浴介助を通じて、利用者の思いや意向を確認できる場としても活用されていかれることに期待したい。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>眠れない方には、職員が居室で一緒に話をさせて頂いたり、フロアに来て頂きテレビ鑑賞をしながら職員と会話し安心して気持ちよく眠れるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬管理は、職員が行っており、各職員には服薬の副作用や用法、用量は個人ファイルにお薬の説明書を確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化を医師に報告している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日々の入居者様の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技などを把握に努めており、自身の力を発揮できるような関りを心掛けている。散歩を日課にしていた入居者様には、天候・季節により時間帯を考慮しながら行っている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物希望された場合には、職員と一緒に近隣のコンビニへ出かけるなど支援を行い、暑い日や寒い日等の場合は、出かける事が出来ないが、個々の希望により散歩等の気分転換を行う様に声掛けし外出を行う様にしている。またご家族様の希望により、ご家族様とご一緒に外出して頂いている</p>	<p>地域のイベントに応じた外出支援と近隣への散歩やコンビニへの買い物等の個別の外出支援が行われている。又、事業所の外出イベントとして、外食を楽しむ企画にも力を入れている。</p>	<p>外出を気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、利用者全員が気軽に近隣への散歩等の外出を楽しめるよう取り組んでいかれることに期待したい。又、近隣への外出介助を利用者の思いや意向を確認できる場としても活用されていかれることにも期待したい。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理不能な方には、家族様・成年後見人等と話しをし、金銭管理を施設で行って金銭出納帳に記入し、家族様の要望があれば残金額をいつでも伝えられる様にしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に携帯電話を置いて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、入居者様と職員とで作成した季節を感じて頂ける作品を飾るなどの工夫を行い、入居者様が快適にすごせるようにしている。又、職員が温度調節やカーテンでの光の調節を行っている。</p>	<p>リビングや食堂は、清潔感あふれ明るく、室温調整にも配慮しながら過ごしやすい家庭的な空間となっている。又、季節感を感じてもらえるような飾りつけや利用者の塗り絵等の作品も掲示されている。</p>	<p>今後も家族と過ごす家庭に近い環境を感じてもらえるよう工夫されていかれると思われるが、フロアの飾りつけ等を家族とも一緒に考えて、取り組んでいかれることにも期待したい。家族の思いや意向を確認できる取り組みとしても活用されていかれることにも期待したい。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた空間では一人ひとりの居場所の確保は困難である為、一人でゆっくり過ごしたい方には居室で過ごして頂ける様誘導の声掛けを積極的に行っている。また、入居者同士の交流という点においては要望を伺い座席、テーブルは一の変更を実施している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談したり本人様が落ち着け居心地良く過ごせるよう、テレビ・椅子・机等各個人に馴染みのある品を置いて頂き、居心地のよく過ごせるように努めている。希望者により、書道等の作品や家族様の写真を置いて頂いている。	各居室は、自宅との違いによる不安等がなくなるよう、利用者がその人らしく居心地よく過ごしてもらえるよう思い出の品等が置かれている。利用者は、安心して過ごせることができています。	居室は、他の利用者との共同生活の中で、プライバシーが確保され、安心して過ごせる場所となる。今後も利用者の立場に立ち、利用者や家族と相談をしながら安心して巣ごせる居室づくりに取り組んでいかれることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室・お風呂場には張り紙を行い場所が明確になるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

